

第3章 妊娠・出産にかかる相談体制と対応状況

慈恵病院と、熊本県・熊本市における妊娠・出産に係る相談の対応状況等について整理を行った。なお、本章における相談件数、分類は各相談機関の集計によるものである。

1 慈恵病院での相談対応の状況

慈恵病院では、平成14年から定期的に期間を限定して実施していた「妊娠かつとう（悩み）相談」を、ゆりかごの計画を機に充実させ、ゆりかご開設前の平成18年11月から24時間無料電話相談（SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談）を開始した。この電話相談は、24時間365日体制で対応している。

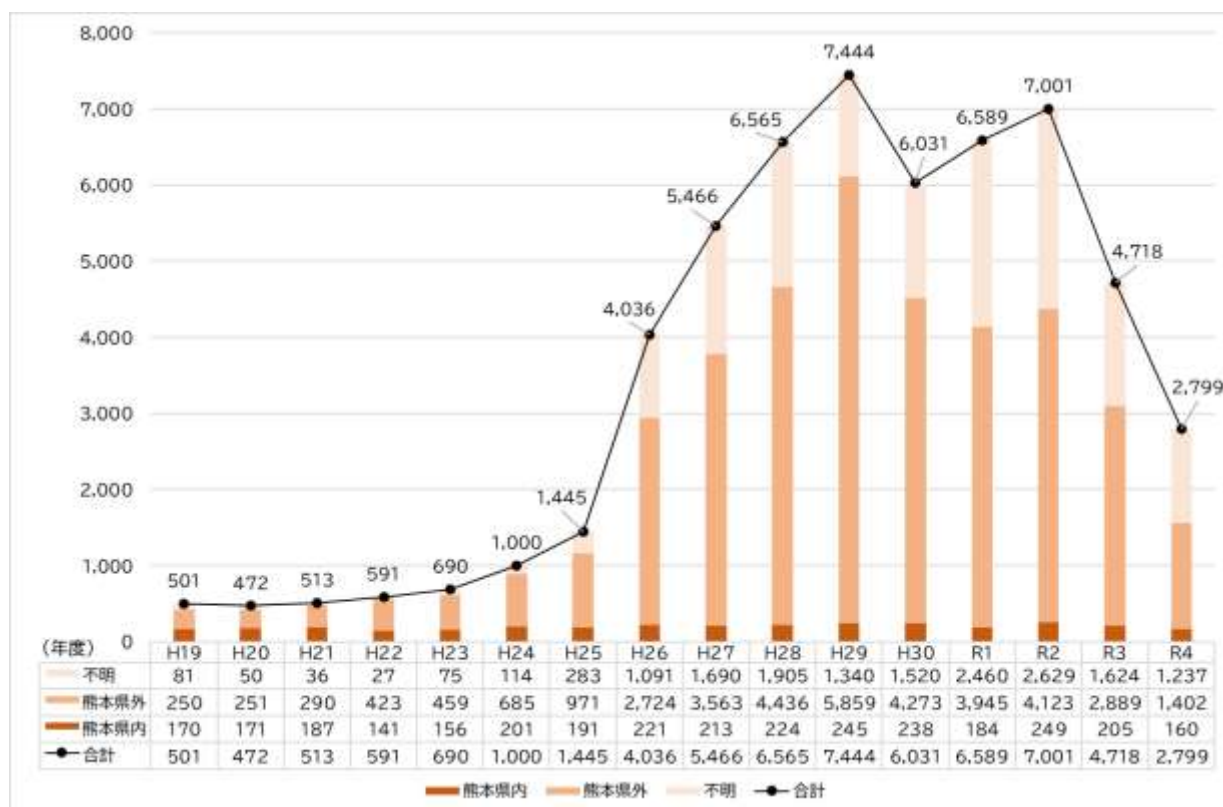
近年の相談件数は減少傾向だが、相談は全国から寄せられ、継続的な対応を必要とする深刻な事例が増えている。こうした相談の中には、内密出産を希望する事例やゆりかご事例とも共通する背景を持つ者も多く、ゆりかご事例の潜在層ともいえる相談が含まれている。

(1) 相談対応の実績

ア 相談件数の推移（【図3-1】参照）

慈恵病院に寄せられた新規の相談件数は令和2年度7,001件、令和3年度4,718件、令和4年度2,799件、合わせて14,518件の相談が寄せられており、減少傾向である。

【図3-1：相談件数の推移（平成19年度～令和4年度）】



イ 相談者の居住地域（【図 3-2】参照）

相談者の居住地域は、県内からは614件、県外からは8,414件、不明が5,490件であり、県内に比べ県外から多くの相談が寄せられている。

【図 3-2：相談者の居住地域】



ウ 相談方法、相談時間帯（【図 3-3】【図 3-4】参照）

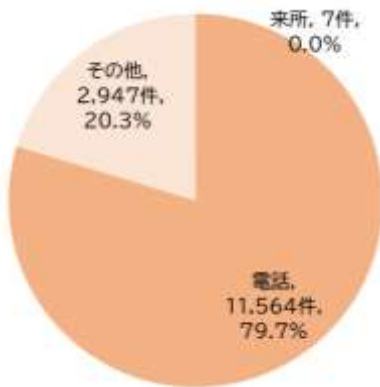
① 相談方法

方法別相談件数は、電話11,564件、来所7件、その他2,947件となっている。

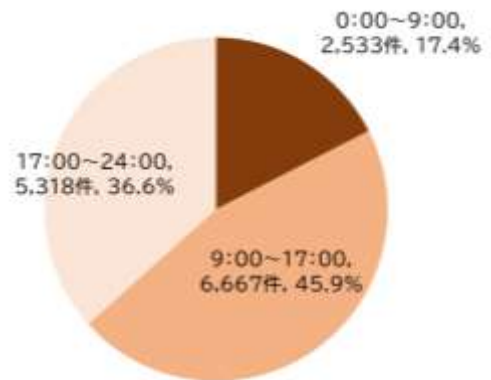
② 相談時間帯

時間帯別相談件数は、9時から17時までが6,667件と約半数を占め、次いで17時から24時までが5,318件、0時から9時までが2,533件であり、深夜から早朝の時間帯も一定の相談がある状態が継続している。

【図 3-3：相談方法】



【図 3-4：相談時間帯】



エ 相談者の状況

① 相談してきた者

母親本人が11,436件（78.8%）と最も多く約8割を占め、次いで夫・パートナー2,230件（15.4%）、家族・知人379件（2.6%）等となっている。

② 相談者の年齢

相談者の年齢別件数は、年齢順に、15歳未満90件（0.6%）、15～18歳未満1,025件（7.1%）、18～20歳未満1,700件（11.7%）、20歳代3,916件（27.0%）、30歳代1,643件（11.3%）、40歳代523件（3.6%）、50歳以上76件（0.5%）等となっている。

③ 未婚・既婚の別（婚姻の有無）

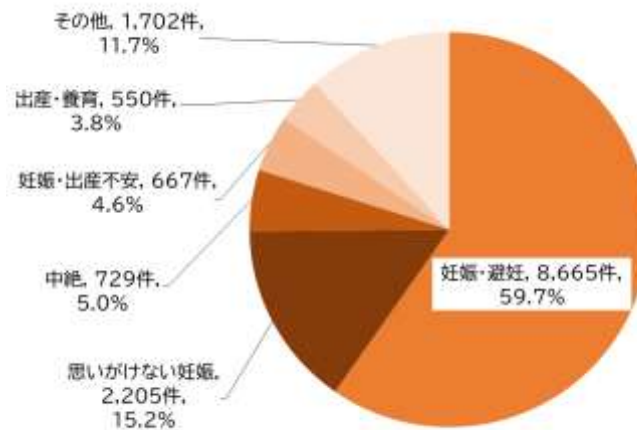
未婚・既婚別件数では、未婚 7,340件（50.6%）、既婚（婚姻中）3,081件（21.2%）、離婚 313件（2.2%）の順になっている。

オ 相談内容及び対応状況（【図 3-5】参照）

① 相談内容

相談内容別件数は、妊娠・避妊に関する相談が 8,665件と最も多く約6割を占め、次いで思いがけない妊娠についての相談が 2,205件、中絶についての相談が 729件、妊娠・出産前後の不安に関する相談が 667件、出産・養育についての相談が 550件等となっており、第5期と同じ傾向である。

【図 3-5：相談内容】



② 対応状況

対応状況では、情報提供 5,502件（37.9%）が最も多く、次いで傾聴・助言が 4,306件（29.7%）、他機関紹介 4,293件（29.6%）、来所案内 294件（2.0%）、緊急対応 84件（0.6%）等となっている。

(2) 相談事例への緊急的対応（緊急対応・緊急面談）（【表 3-1】参照）

病院相談事例の中で緊急的対応を行った事例は、令和2年度 34件、令和3年度 15件、令和4年度 35件、合計 84件であった。

このうち、陣痛が既に始まっている等、何らかの「緊急対応」を必要としたものが 69件、最初の電話相談を受けずに、直接来院し（本人又は家族同行、紹介など）、面接面談を希望した場合や、産科で妊婦健診受診中に不安定になるなど、面談の必要を感じ、急遽、面談を行った場合などの「緊急面談」を行ったものが 15件となっている。なお、平成30年度の件数が多くなっているが、これは慈恵病院の統計処理の取扱いの違いによるもので、全体的な相談傾向に大きな変化はないとのことであった。

なお、ゆりかごのインターホンを押した相談事例（ゆりかごの利用はなし）は、令和2年度 0件、令和3年度 0件、令和4年度 3件、合計 3件であった。

【表 3-1：相談事例への緊急的対応件数の推移】

	第5期				第6期			
	H29年度	H30年度	R1年度	合計	R2年度	R3年度	R4年度	合計
緊急対応	9	43	28	80	26	12	31	69
緊急面談	9	134	19	162	8	3	4	15
合計	18	177	47	242	34	15	35	84

緊急対応・緊急面談を行ったもののうち特筆すべき事例は、次のとおりである。

- ◆相談事例 1：障がいのある幼児をゆりかごに預けたいとメール相談があった事例。居住地の児童相談所と連携し情報共有を図った。
- ◆相談事例 2：妊婦健康診査未受診であり、陣痛がきて電話相談ののち、飛び込み出産した事例。特別養子縁組の希望もあったが、同居家族に相談し、居住地からの行政手続の支援や面会などを通して家庭養育することを希望された。
- ◆相談事例 3：妊婦健康診査未受診であり、妊娠に気づいたときには中絶できずに自宅出産したことをメール相談した事例。居住地の警察、救急隊に保護してもらい医療機関に入院。保険証や経済面の支援など医療機関の相談員の支援につながった。
- ◆相談事例 4：自宅で死産し、パニックになり相談があった事例。警察署に保護を求めて相談したが、逮捕されて、その後不起訴となった。
- ◆相談事例 5：施設入所中の若年妊婦から周囲に知られずに出産したいと相談があった事例。慈恵病院に新幹線で来院後に母子手帳発行手続や出産後の意向について確認し支援を開始した。
- ◆相談事例 6：夫とは違うパートナーの子を妊娠し、実親にも相談できずにおり、特別養子縁組を希望した経産婦の相談事例。切迫早産で入院となり出産し、こどもは特別養子縁組となった。母親にとって5回目の特別養子縁組となった。
- ◆相談事例 7：行政に知られたくないと孤立出産を検討し、ゆりかごの利用や特別養子縁組の利用を考えているが悩み相談してきた経産婦の事例。孤立出産の危険性を説明し、居住地の医療機関へ受け入れを要請し、受診後出産となった。
- ◆相談事例 8：経産婦がお腹の張りがあると「189」（児童相談所虐待対応ダイヤル）に相談すると慈恵病院のSOS相談を案内。慈恵病院から居住地の行政へ問い合わせで支援の依頼と医療機関に相談し、帝王切開での出産となった。
- ◆相談事例 9：第3子の孤立出産の危険性がある保護者がいると保育園の保育士が慈恵病院に相談した事例。母子手帳発行や保険証の手続の支援をし、医療機関での受診や出産ができるように寄り添って支援した。
- ◆相談事例 10：夫からのモラハラ・DVがあり、こどもを育てる意欲もなくなり、ゆりかごに預けようと来院したが、扉の横に「インターホンを押してください」と書いてあるのを見てインターホンを押し、相談した事例。生活困窮保護室での支援は拒否。その後も特別養子縁組が里親が悩んでいる。
- ◆相談事例 11：母子生活支援施設で生活をしていたが、関係者に相談しても解決しないと思い、小学生のこども2人を連れてインターホンを押し、相談した事例。行政と連携しシェ

ルターに入所し生活拠点を整えるため支援を開始した。

- ◆相談事例 13：夫からのモラハラ等あり家を出て実家や友人宅で生活していたが折り合いが悪くなり、子育ても精神的に限界になってしまい幼児と乳児を連れてインターホンを押し、相談した事例。児童相談所にこどもは保護された。

(3) 相談事例での特別養子縁組の状況（【表 3-2】参照）

慈恵病院には、特別養子縁組で養親となることを希望する相談も寄せられており、相談件数は令和2年度、令和3年度、令和4年度の合計で587件となる。またこれらの28件のうち20件については、慈恵病院の新生児相談室（民間あっせん事業所）が担っている。

【表 3-2】

（単位：件）

年度		第5期			第6期			合計
		29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
特別養子縁組相談件数		187	271	165	267	149	171	587
特別養子 縁組事例 件数	慈恵病院での出産	14	4	10	7	2	11	20
	他院での出産	5	9	4	4	2	2	8
	計	19	13	14	11	4	13	28

※ R1年度特別養子縁組事例件数：検証報告では11件で報告しているが、1件中止

2 熊本県・熊本市での相談対応の状況

熊本県では、ゆりかご開設に併せて、中央児童相談所に出産・養育についての相談専用の電話回線を設けたが、現在は県女性相談センター「妊娠とこころの電話相談」で、匿名での妊娠に関する相談に対応している。また、平成29年度からは、産前・産後母子支援事業を開始し、特定妊婦等に対する相談対応を行っている。

熊本市においては、ゆりかごの開設と同時期に、24時間の電話相談「妊娠に関する悩み相談」を開設した。また、平成29年度からは、産前・産後母子支援事業を開始し、24時間の電話相談、緊急的な住まいの提供及びアウトリーチ等を含めた相談対応を行っている。その他、各区役所保健こども課等においても妊娠・出産に関する相談に対応している。また、令和5年度には、様々な事情から誰にも相談できないまま出産にいたる場合があることから、妊娠等の悩みを匿名でも相談できる窓口として、「妊娠内密相談センター」を設置し、相談体制の強化を図っている。

このように、熊本県、熊本市ともに電話相談及び来所相談による相談体制の充実を図り対応にあたっている。以降の件数等については、熊本県の電話相談「妊娠とこころの相談」及び熊本市の「妊娠に関する悩み電話相談」等に寄せられた相談件数を計上している。

(1) 相談対応の実績

ア 相談件数の推移（【図 3-6】参照）

令和2年度から令和4年度の相談件数は、合計で熊本県201件（先述の産前・産後母子支援事業の相談対応件数は含まず）（新規159件、継続42件）、熊本市2,204件（新規459件、継続1,745件）となっている。

【図 3-6 : 相談件数の推移】

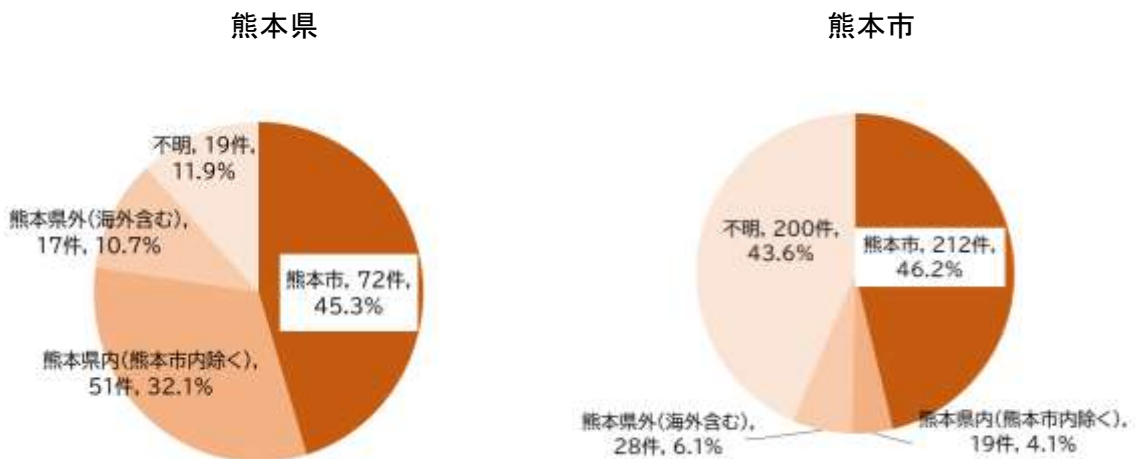


イ 相談者の居住地域（【図 3-7】参照）（新規相談分）

熊本県では、熊本市内を除く熊本県内から 51 件、熊本市内からの相談が 72 件、熊本県外から 17 件となっている。

熊本市では、熊本市内からの相談が 212 件と最も多く、次いで熊本県外から 28 件、熊本市内を除く熊本県内から 19 件となっている。

【図 3-7 : 相談者の居住地域】



ウ 相談方法、相談時間帯

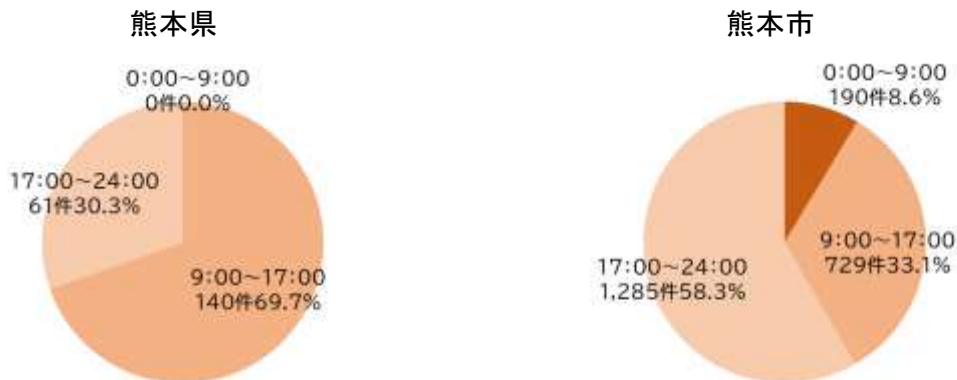
① 相談方法（【表 3-3】参照）

方法別相談件数は、熊本県では電話での相談が 201 件である。一方、熊本市では電話での相談が 1,235 件、来所での相談 60 件となっている。

② 相談時間帯（【図 3-8】参照）

時間帯別相談件数は、熊本県では、9時から17時までが140件、17時から24時まで（20時終了）が61件となっている。熊本市では、9時から17時までが729件、17時から24時までが1285件、0時から9時までが190件となっている。熊本県、熊本市ともに17時～24時の時間帯の相談割合が5期と比較して増加している。

【図 3-8：相談時間帯（県・市）】



エ 相談者の状況

① 相談してきた者

熊本県では、母親本人が170件（84.6%）と最も多く、次いで夫・パートナーが23件（11.4%）等となっている。

熊本市においても母親本人が1,715件（77.8%）と最も多く、次いで家族・知人49件（2.2%）等となっている。

② 相談者の年齢

熊本県では、15歳未満が1件（0.6%）、15～18歳未満が21件（13.2%）、18～20歳未満が12件（7.5%）、20歳代が52件（32.7%）、30歳代が43件（27.0%）、40歳代が10件（6.3%）、50歳以上が4件（2.5%）等となっている。

熊本市では、15歳未満が4件（0.9%）、15～18歳未満が31件（6.8%）、18～20歳未満が24件（5.2%）、20歳代が90件（19.6%）、30歳代が68件（14.8%）、40歳代が20件（4.4%）、50歳以上が4件（0.9%）等となっている。

③ 未婚・既婚の別（婚姻の有無）

熊本県では、未婚が69件（43.4%）、既婚（婚姻中）が76件（47.8%）、離婚が5件（3.1%）等となっている。

熊本市では、未婚が188件（41.0%）、既婚（婚姻中）が106件（23.1%）、離婚が16件（3.5%）等となっている。

オ 相談内容及び対応状況

① 相談内容

熊本県では妊娠・避妊に関する相談が114件と最も多く、次いで思いがけない妊娠についての相談が30件（14.9%）、妊娠・出産前後の不安に関する相談が15件、中絶についての相談が8件、出産・養育についての相談が6件等となっている。

熊本市では、出産・養育についての相談が794件と最も多く、次いで、妊娠・避妊に関する相談が365件、思いがけない妊娠についての相談が321件、妊娠・出産前後の不安に関する相談263件、中絶についての相談87件等となっている。

① 対応状況

熊本県では、傾聴・助言が200件（99.5%）と最も多く、次いで他の相談機関紹介が1件（0.5%）等となっている。

熊本市では、傾聴・助言が1,588件（72.1%）と最も多く、次いで情報提供が424件（19.2%）、来所案内6件（0.3%）、緊急対応3件（0.1%）等となっている。